

古墳時代にタイムスリップして

流行に乗ってみよう!!

～埴輪から当時のファッションを読み取る～



↳ 群馬県埋蔵文化財調査センター 発掘情報館

太田市立太田中学校

I年B組 浅野 瑚葉里

1, 研究の動機

私達の世代では、流行の最先端を走っている人が多い。

だが私は、古墳時代について授業で学び、当時の「流行り」は何だったのだらうと、疑問に思った。

そこで私は、時代を遡り、古墳時代の流行りについて研究することにした。

2, 調査内容・手段

① 古墳時代に流行っていた服装を調べる

発掘情報館内の遺跡情報室を利用



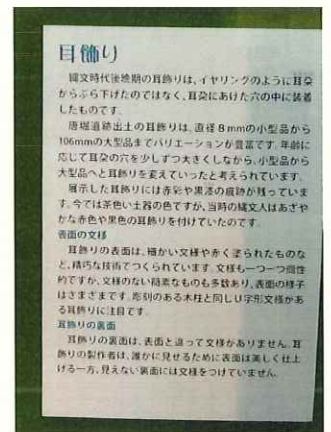
活用できそうな資料を見つけ、館内にあるコピー機でプリントさせてもらう。



② 古墳時代に流行っていたアクセサリーについて調べる

図書館で借りた本を参考にする。

発掘情報館の展示物を参考にする。



③ 古墳時代に流行っていたヘアスタイル&メイクを調べる

活用できそうな資料を見つけ、館内にあるコピー機でプリントさせてもらう。

発掘情報館の展示物を参考にする。



おまけ

1-A 古墳時代の家族構成とは!?

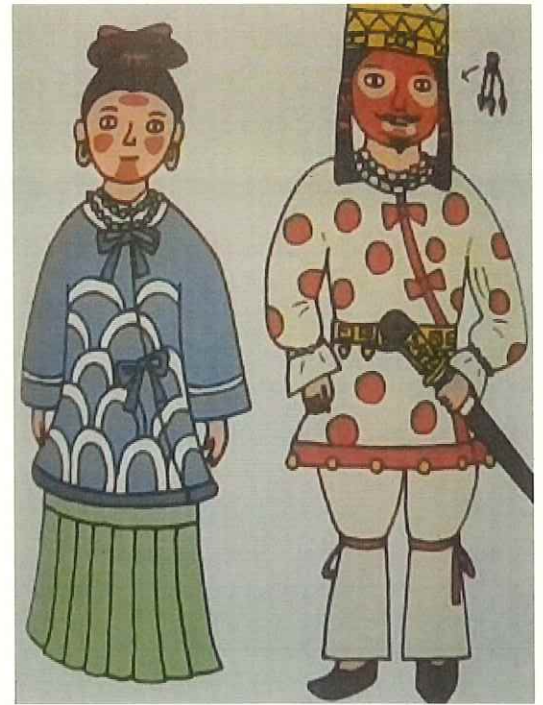
1-B なぜ名前が2つ?

3, 調査結果

① 古墳時代に流行っていた服装

豪族の服装

- ・現在は女性が左前、男性が右前、という合わせで洋服を着ているが、当時の人々は、男女ともに左前の合わせで洋服を着ていた。



★男性

- ・ズボンのような袴を履いていた。
- ・歩きやすくするため、膝下部分を^{あゆい}足結と呼ばれるものでくくっていた。
- ・正装の場合、大刀と呼ばれる刀を身につけていた。



♡女性

- ・スカートのような裳を履いていた。
- ・色々な色に染められた絹糸で織った布で作られ、水玉や波形などの模様がついていた。



一般の人々（庶民）の服装

- ・一般人は、豪族のように「男性はズボン」「女性はスカート」という区別はなかった。
- ・男女ともに貫頭衣のようなワンピース型の衣服を着ていた。



方形の布をつなぎ合わせて、腰に紐を結んだだけのシンプルなもの

- ・冬など、寒さをしのぐ時にはズボンを履いたり、動物の皮を使用したり、サンダルのようなものを履いたりした。
- ・特別な日は、手作りのアクセサリーを付けていた。



② 古墳時代に流行っていたアクセサリー

耳飾り(耳環)

縄文時代

古墳時代

☆耳飾り&けつ状耳飾り

耳たぶに穴を開けて
耳飾りを通す・はめ込む
(現代のピアス)



○素材は主に

【木、土、石、貝、動物の骨、角、歯】

土製



耳かしの彫りの耳かざり
(群馬県千綱谷戸遺跡)



耳かざり
(大阪府国府遺跡)

首飾り



☆耳環

耳たぶを耳環で挟む
(現代のイヤリング)



【金、銀】

金属製

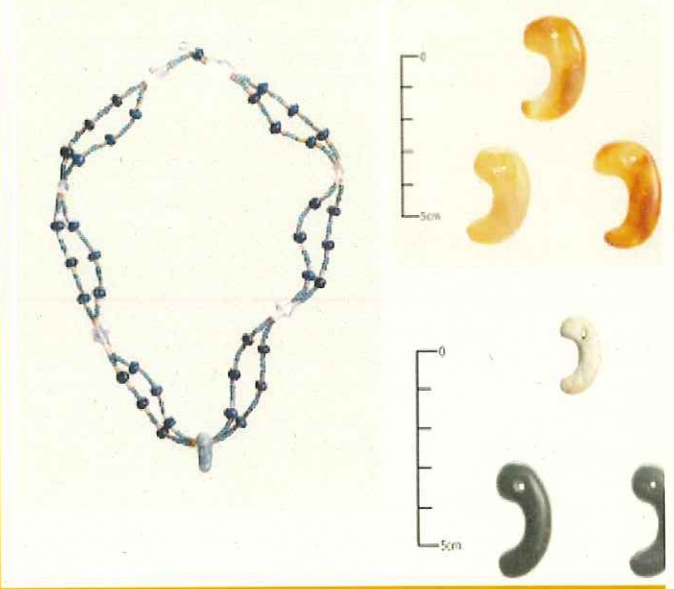


○素材は主に

【動物の牙や骨、石や貝】



【ガラス、石、金属】



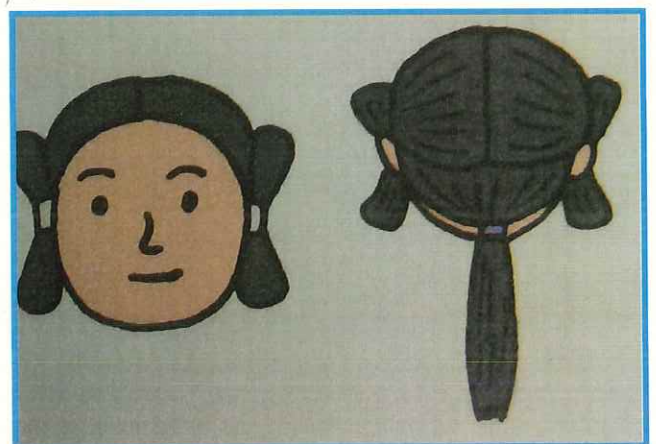
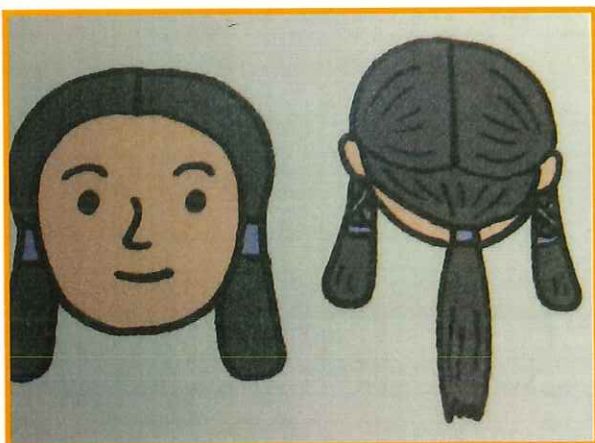
③ 古墳時代に流行っていたヘアスタイル&メイク

1, (1) 男性のヘアスタイル

- ・現代は、男性の多くが短髪ですが、古墳時代の男性は長髪だった。
- ・基本は、髪を毛を両耳の脇で紐を使って束ねる。

身分が高い人...これを肩に向かって垂らした、**「下げ美豆良」**

一般の人...束ねた髪を耳のすぐ脇で縛り、下に垂らさない、**「上げ美豆良」**



(2) 女性のヘアスタイル



- 基本は髪の毛を頭上に結び上げ、毛束を折りたたんでいる。

これは、日本髪「島田髷」の始まりなのではないかと考えられている!!

- 高貴な人々は、髪の毛の長さが70cm以上だったとか!! (高貴な人ほど髪が長い) **島田髷**

高貴な人...折りたたんだ毛束に櫛を挿したり、紐で飾ったりと**華やかな髪型**

一般の人... (農作業の邪魔にならないよう) 後ろで一つに結んだりお団子を作って頭上に結び上げた**シンプルな髪型**



2, メイク

- 「メイク」といえば女性の方がしているイメージだが、古墳時代は男性もしていた。
- 現代は「自分に自信を持つ (美しくなる) ため」「身だしなみ・マナーとして」メイクをする人がだいたいですが古墳時代の人々は「悪霊や災いを防ぐ魔除け」としてメイクをしていた。



赤い顔料を塗っていた



疑問

Qなぜ赤の顔料なのか？

A 赤い色は「太陽」や「血」を表し、生命を連想させる色だから。

今よりも、「死」「自然」への恐怖の念が強かった時代、赤い色は人々を守る呪力を持った特別な色だと考えられていた。

おまけ

1-A 古墳時代の家族構成とは!?

Q古墳時代の人々はどんな家族構成で生活していた？

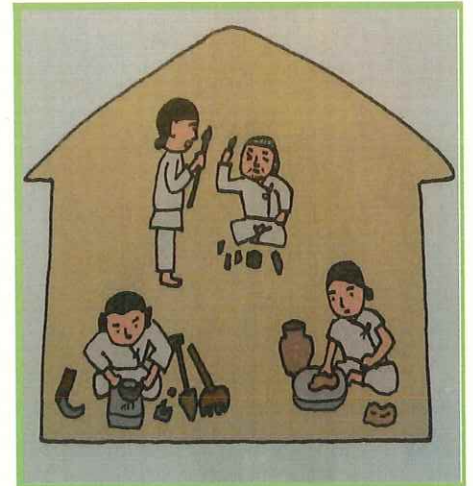
A 様々な家族の形があった！（決まりはない👤）

「母系血族中心の家」や「夫婦で暮らす家」、「職人が集団で暮らす家」など...



結婚しても夫婦一緒に暮らすのではなく、

夫と妻は別居して、夫が定期的に妻に会いに行くこと。 ※後の「妻問婚」



1-B なぜ名前が2つ？

Q大仙古墳と仁徳天皇陵古墳 同じ古墳なのになぜ名前が2つ？

大仙古墳と仁徳天皇陵古墳のように2つの名前がある古墳は他にもある。

誉田御廟山（こんだごりょうやま）古墳を応神天皇（おうじん）陵古墳と呼んだり、

ミサンザイ古墳を履中天皇（りちゅうてんのう）陵古墳と呼んだりする。

A 「大仙古墳」は考古学の調査によって付けられた名前であり、「仁徳天皇陵古墳」は決定的な証拠がないまま仁徳天皇の陵（墓）と、決められ、付けられた名前だから。

「陵」は「りょう」の他に「みささぎ」という読み方があり、これは天皇の墓であることを表す。だから、履中天皇陵古墳は履中天皇の陵、ということ。

4, まとめ

- ・現代は女性が左前、男性が右前の合わせで服を着ますが、古墳時代は男女ともに左前の合わせで服を着ていました。このことから、時代とともに考え方、価値観が変わるのと一緒に服の着方まで変化することを実感しました。
- ・古墳時代に耳環と呼ばれていたものは現代のイヤリングに繋がっていて、より良いものにするため人々は工夫を重ねていったのだと感じました。
- ・縄文時代では、自然や生き物から採れるものを首飾りに活用していましたが、古墳時代になってからは石や、ガラスなどの玉類を使用している事がわかりました。
- ・古墳時代の髪型も服装と同じように、身分によって違いがあることがわかりました。身分の低い人々は過ごしやすさを重視した髪型をしていました。
- ・メイクは現代でも古墳時代でも施されていますが、現代は美しく見せるため、マナーとして施し、古墳時代は魔除けのために施す、という点で違いがありました。

5, 感想

この研究をして、流行りはどの時代にもあるけれど、今の時代から見ても、それぞれの時代に美しさを感じました。現代でも古墳時代のアクセサリーを再現した物が売っていたり、博物館に行くと実際に作らせていただける体験学習があったりします。私はこのことを知り、現代に古墳時代のネックレスを着飾っても、おかしくなく、逆に個性が出ていて美しいと思いました。

今回私が調査しに行った「群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館」には実際に縄文時代のネックレスづくりを体験できるイベントが実施されていたので次の機会に参加したいです。私達の住む群馬県には多くの古墳があります。私はこの東国文化自由研究をするまで群馬に古墳がたくさんあることを知りませんでした。きっと私のように知らない人、古墳について考えたこともなかった人がいるはずです。この機会にもっと古墳の魅力を伝えていきたいです。



群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館
「縄文時代のアクセサリーを作れるイベント」

参考文献

ひろしまweb博物館 “おしゃれの考古学”

<http://www.mogurin.or.jp/museum/project/h23/accessory/>

天理参考館 “縄文時代の耳飾り”

<https://www.sankokan.jp/furugawa/20180205>

jomon@school “縄文時代に愛用されたネックレスとは？”

<https://www.jomon-jidai.com/life/post-137>

古代歴史文化協議会 “用語説明”

<https://kodairekibunkyo.jp/data/glossary.html>

まなれきドットコム “妻問婚とは？簡単にわかりやすく説明するよ”

<https://manareki.com/tumadoikon>

太田市 “天神山古墳”

<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/bunkazai/otabunka44.html>

浜島書店 “なぜ同じ古墳でも名前が何種類もあるの？”

<https://www.hamajima.co.jp/rekishi/qa/a4.html>

譽田亜紀子 (2021) 知られざる古墳ライフ 誠文堂新光社 出版